

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 4年 2月 25日

事業所名 おひさまはうす

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	2		手作りの間仕切りパーテーションを作成する等個室が確保されている個室別のスペースを設けている方について照明不足のように思う	・子どもたちの特性に合わせて集団活動や個別活動のバリエーションを調整しており、今ある資源の中で場所の調整を行っています。同施設内の共有スペースもうまく活用しながら今後も引き続き様々な機会の提供を行っていきたいと思います。
	2	職員の配置数は適切である	2	3		配置数は適切であるが対応については検討が必要である。子供の情緒面や状況に応じて対応が難しい場合がある為個々のスケジュール等で変更内容を配慮する。	・利用人数に対して必要な人数以上の職員配置は引き続き行っている(子どもたちが活動する時間帯には4～5名は配置)。スタッフの支援スキルアップと同時に、日々の連携の取り方などの整理しながら支援にあたりたいと考えています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	2	2	車いすの利用書が建物の共有スペースの2F広間に上げられない(エレベーター補助具がないため)。廊下が狭い。	・現在、お借りしている建物自体の問題と資金的な課題もあり、なかなか調整できていない現状がある。今あるもので工夫しながらも、体験の機会自体に差が生じないような形を検討したい。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	2	3		毎日事前の打ち合わせと終了前の振り返り時に子どもたちの対応について共通理解を図っている。また月に1回のスタッフMでは全体の活動の検討を行っている。	スタッフ全員同席して共通理解をする場に関して月に1回のスタッフMのみなため、日々変更になる部分についてはスタッフによって若干理解に誤差があるときがある。記録の仕方を整理し、PDCAサイクルがうまく回るような工夫を検討する。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5				アンケートだけでなく、日々のやり取りの中でもみなさまのニーズの確認を引き続き行っていきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	3		毎年、玄関の掲示板とHPに掲載している。	毎年HPに掲載、玄関の掲示板に張り出すなどして公開している。ただ、周知が足りていない可能性があるため徹底していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	1	2	紙面での評価はなかなかないが民生委員保健福祉課嶺教等いろいろな立場の方の来所があり意見を頂いている。	その他、保護者の方の視点も入れていくようにしているが、書面で残すようなやり方を今後検討していきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3		2	・色んな資料や講演会などの情報を教えてくださいませ。そして参加させてもらう機会もあります。 ・非常勤でも研修費を出してもらってZOOM研修を受ける事ができた。またスタッフから研修の紹介があったり良い資料はラインで送ってもらったりと充	・職員の研修規定を明確にし、自閉症eサービスの研修や、自立支援協議会が行う研修などにも参加してもらっている。今後も資質向上にむけて頑張りたい。

適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	3	2	保護者の迎えの際、担当者が施設での様子を伝えたり家庭での様子を聞く等情報収集を密にして取り組まれている モニタリングシートで保護者面談の際に定期的に実施している	お子さんやご家庭の状況は日々変わっていくものだと思うので、定期的な面談の場以外でも送迎時や追加での面談なども活用していきたい。また、簡単な評価ツールも随時使用しながら検討していきたい。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	2	2	再構造化が中々できずに同じツールを使用してすごしている利用者もいるので見直しが必要だと思っっています。	現在は簡易の評価ツール(自閉症eサービスが開発した評価キット)を使用している。今後、vinelandを活用できるよう研修などにも参加していきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	2	非常勤も参加させてもらって毎日の事前打ち合わせ振り返り子供の様子を確認しながら活動プログラムを考えている月一回のスタッフMでも検討する時間をも受けている	利用している子どもたちの特徴やニーズもかなり多様化してきているため、誰かが中心に立案していくのではなく、様々なスタッフが参加することで、それぞれの得意分野を活かせるような立案の仕方を今後も継続していきたい。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5				毎日活動プログラムが変わっている。今後も固定化しないように、またニーズにあった活動になるように意識して取り組みたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	1		グループワークができるように色々な余暇の提示に興味関心の評価をとりながらすすめています。	平日には都度メンバー構成をしてグループプログラムの実施、休日には買い物や農作業体験など時間がかかる活動の実施、長期休みは平日と休日のプログラムを合わせて行ったり、季節の行事を行うなどしている。コロナ禍において、自宅でうまく過ごすことができないとのニーズをお聞きすることが多かったため、家庭支援にも力を入れていきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3	2		時間を決めて大きな活動を組み立てたり一人で過ごす時間を設けたりバランスを取りながら過ごすようにしています。	現在はグループ活動と個別活動を交代制で実施している(例：火曜→Aグループはグループ活動、Bグループは個別/翌日水曜はその逆になるなど)。またグループ活動に参加しにくい方は少人数での活動を実施するなど工夫している。今後も継続していきたい。
適切な支援の提供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5			毎日活動の前に支援の内容や役割分担について明確にしている。非常勤も同一步調で取り組めるので休みの次の日の出勤も安心できる。	支援内容や役割分担の確認は必ずできているが、その支援に至るまでの流れの詳細な部分での共有はあとからになってしまうこともある。今後はその点もスムーズに伝えることができるような方法を検討していきたい。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5			振り返りの際、今後の対応について話し合ったり、指導助言をもらったりしている。	かならず実施している。ただ、熱心に話をするあまり、勤務時間が伸びてしまうことがあるため、決められた時間枠の中で要点を抑えてやりとりできるような工夫を検討していきたい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	1		振り返りで出た内容は業務日誌に記録している。	スタッフ間でも、業務日誌を必ず確認してから業務に入る流れが確立されており、詳細を聞きたいことがあった場合には、常勤職員や管理者に確認することができる。今の形を継続していきたい。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	2	3		少なくとも半年に1回は面談を行い、見直しをしている。また随時必要な場合には加筆修正して変更している。	保護者の方々と日程調整の仕方に課題を感じている。随時お話しした時にはその記録を支援計画に落とし込むことができるようにしていきたい。また、障害名の告知が済んでいる利用者の方もおられるため、ご本人と面談をしてニーズを聞き取りするなどの機会も今後検討していきたい。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	4	1		行っているが、職員全員が把握しているわけではないように感じる。	ガイドラインをいつでも確認できる場所に保管しているが、あまり見ないのであればいつでも確認できるような場所に変更するなど工夫をしたい。

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5			基本的には管理職が対応しているが、ケースに応じて担当職員も同席し詳細を話すことができるようにしている。	現在、管理職が全利用者の状況を把握してやりとりしている。今後については、現場スタッフも積極的に所外の支援関係者とやり取りをすることで自身の理解が深まると思うので継続して様々なスタッフが参加できるようにしていきたい。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	5			保護者の方から定期的に学校からの便りを事業所にも渡してくれる。また、学校によっては、学校から直接事業所に知らせてくれるところもあり助かっている。	今後も良好な関係を築くことができるよう事業所としても務めていきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	2		医療ケア児はいません	今後ニーズがあればそれに答えることができるような準備を今のうちからしておきたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	1		高浜町に関しては、行政(保健福祉課)と教育、保育所の連携が図りやすく、必要であればいつでもやり取りできるような状況にある。	町外の方については相談支援事業所が作成したサービス等利用計画に記載されている成育歴を確認するほかにないため、今後町外の方とのやり取りをどうするか検討していきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	3		事業所から直接やり取りする機会がこれまでほとんどない。保護者の方と一緒に作成するサポートブックを活用することはしている。	自立支援協議会などとも連携していきながら、成人期の事業所の方との情報伝達の方法を検討していきたい。相談支援事業所が放課後等デイやってきたことをすべて説明するのは難しいと感じる。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	4		センター機能のある事業所から相談されることがある。	これから知的障害を伴わない発達障害のお子さんの将来像を具体的にしていくために発達障害者支援センターの方との連携が重要になってくると感じる。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2		3	いろいろなニーズがあるため考え方が難しい。	地域小中学校に所属されているお子さんのご利用が増加してきたこともあり、交流の機会の取り扱いについては個別のニーズに合わせ、慎重に行っていきたいと考えている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	2		児童関係事業所の連絡会の相談役になっている。	福井県嶺南の協議会はかなり連携を密に行っている。今後も積極的に参加しながら嶺南の障害福祉を充実させていきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5			連絡帳、口頭等でやり取りしていますが特には電話でお伝えしたりもあります。	・今後、メールやLINEなどのツールを使ったやり取りの方法も検討していきたい。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	2		研修等で聞く等していますが意識してそれを使った対応ができていないか分かりません	・月に1回程度、保護者交流会を開催しており、そこでは家庭での対応なども含めた研修形式の会と、息抜きの場を組み合わせ実施している。ただ、平日に開催するとお仕事をされている親御さんの参加が難しく、逆に休日に開催するとお子さんを誰が見るのかが課題になっております。できる限りたくさん保護者のみなさまにご参加していただくことができるよう検討していきたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	2		契約時やもし規定に変更があれば都度説明している。	報酬改定の際には各利用者へ個別に説明を行った。また、普段の利用では発生しないがその月だけ発生する金額(例：家庭連携加算など)がある場合にも個別に説明している。今後も継続していきたい。
31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5			少しでも時間があればお話しさせていただき、ゆっくり話が必要であれば面談を行っている。	・今後も保護者のみなさまや子どもたちのよき理解者であり続けることができるように努めたい。	

保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5			・保護者交流会 ・今年度はSUNNY(保護者が運営する保護者会)も運営素晴らしい	・月に1回程度、保護者交流会を開催している。ただ、平日に開催するとお仕事をされている親御さんの参加が難しく、逆に休日に開催するとお子さんを誰が見るのが課題になっている。できる限りたくさん保護者のみなさまにご参加していただくことができるよう検討していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	3	2		とても理解のある親御さんたちなのではっきりとした苦情についてはなかった。ただ、他利用者との接点の部分でご意見をいただくことがあったため、その日のうちにスタッフと話し合い、教室の再構造化を行った。	利用する子どもたちの特徴やニーズがかなり多様化していることもあり、利用者同志のトラブルもあるが、事業所として大切に思っていて支援させていただいているところをお伝えしながら真摯に対応していきたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	1	2	年に一回行ってます	今年度から事業所に掲示板を設け、保護者の方が迎え時に活動の様子を見ていただくことができるようにしている。今後も様々な工夫をしていきたい。
	35	個人情報に十分注意している	5			子供家族関係等個人情報は施設内のみでの閲覧記録を含め職員の意識共有に努めている	当然ではあるが、個人情報を保管している棚にはカギを掛け、かならず施錠している。今後も今の対応を検討していきたい。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			お互いの情報が子供の安心できる環境と成長に繋がるように共有することが大切であることを会話の度に伝えるようにしている	必要に応じて、視覚的なやり取りも行っている。こちらの思いやしてほしいことをどう理解してもらうのかばかりでなく、お子さんや保護者の方からも表出しやすくなるような工夫も検討していく必要がある。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		5		コロナ禍で対応不可	コロナの感染拡大が落ち着いたら積極的に取り組んでいきたい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	1		職員にはいつでも確認できる場所にマニュアルをまとめておいてあり、その時々での注意点(例：熱中症対策、感染対策、時事事項など)についてはさらに見やすい場所に掲示している。ただ、保護者の方には足りない。	玄関の掲示板をうまく活用していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	1		・現在、年に数回消防署の方に実地指導に来ていただいたり、水消火器を使用した消火訓練なども実施している。ただ、見える化ができていないため、今後掲示板に記載するなどして現状を確認いただけるような形を検討していきたい。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5			今年度も1回、全職員向けに虐待防止研修を行った。	委員会の義務化もされることなので、今後もより具体的な研修等を実施できるようにしていきたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4		1	虐待防止委員会が設立されているのでもしも身体拘束が必要な利用者が来られた際は適切な対応をとり計画に記載します。	徹底して行っている。身体拘束の計画書も必要に応じて記載している方もいるが、一番大切なのは普段から情緒的に安定して過ごすことができるようになることが一番大切なことであるため、ここも徹底していきたい。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	1	2	食物アレルギーがある人がいません。	必要になればきちんと対応していく。

	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		振り返りの時間にその都度共有。 内部研修の際に再度報告してもらい対応について職員の周知徹底を図っている	徹底して行っている。今後も今の対応を継続していきたい。
--	----	---------------------------	---	--	--	-----------------------------